

④新規用途開拓による地域農林水産物の需要拡大、ブランド向上

生物多様性に配慮する「コウノトリ育む農法」の兵庫県産新規需要米を用いた米パン類の開発・製造・販売

「コウノトリ育む農法」の生物多様性や環境保全への貢献と食の安全を消費者に伝える米パン類の開発・製造・販売を行う。

➤ 連携体

農林漁業者

JAたじま（農業）

新規需要米として原料を安定供給し、田の生物と人間が共存する「コウノトリ育む農法」の普及拡大を図る。

中小企業者

生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合（無店舗小売業）

「コウノトリ育む農法」の意義を消費者に広めるとともに、他材料も国産にこだわった米パンを開発・製造・販売する。

（公財）ひょうご産業活性化センター

サポート機関等

（独）中小企業基盤整備機構近畿本部

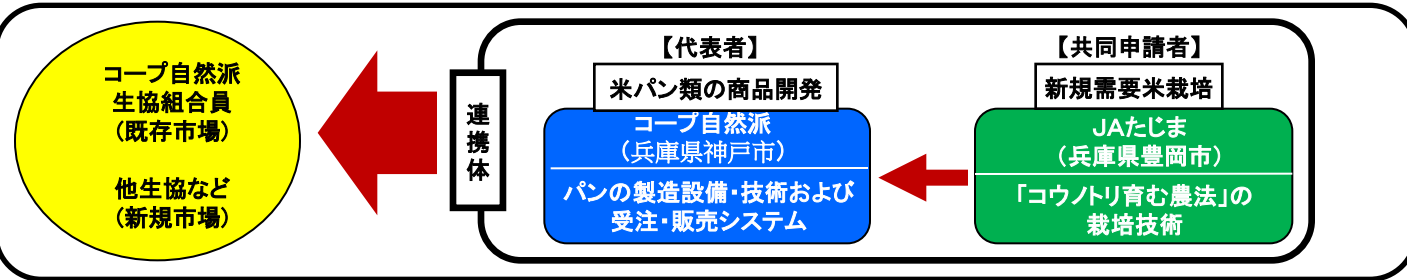
➤ 連携の経緯

コープ自然派の会員は、環境保全への意識が高く、商品に対しても原材料や自然環境への影響に関する情報公開の要望が強い。コープ自然派は、その要望に応えられる米パンの内製化を計画していた。一方、JAたじまはコウノトリの餌となるドジョウ、蛙等が生息できる自然環境を維持できる栽培方法である「コウノトリ育む農法」の普及・拡大に注力していた。両者の思惑が、米パンの開発・製造・販売することで一致し、連携して取り組むこととなった。



➤ 連携に当たっての課題や工夫等

JAたじまは、収量が多く、耐病性に優れ、米パンに適した品種であるミズホチカラ等を新規需要米として「コウノトリ育む農法」で栽培指導する。コープ自然派は他の材料も国産にこだわった安心・安全な各種米パンを開発し、販売拡大を図るとともに、米の需要を伸ばし「生産者と消費者の顔の見える関係を大切に、自然を守り、自然と共存する暮らしの実現」を目指す。



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で216万円の売上高増加、4haの「コウノトリ育む農法」面積拡大

収量が多く、耐病性に優れたミズホチカラ等の米パン適用品種の栽培により、「コウノトリ育む農法」の面積拡大と農業経営安定の貢献が期待される。

中小企業者

5年で約5,200万円の売上高増加、新たな環境保全貢献商品の開発

「コウノトリ育む農法」の米パンによる事業展開を図ることにより、生物多様性保全と売上の増加が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名：生活協同組合連合会コープ自然派事業連合
 TEL：078-998-0850
 FAX：078-998-0851

所在地：兵庫県神戸市西区見津ヶ丘3-8-5
 ホームページ：http://www.shizenha.ne.jp